

2024年9月1日

年間第22主日

菊地功大司教 メッセージ

9月1日は、被造物を大切に作る世界祈願日であり、日本の教会は、本日から10月4日、アシジの聖フランシスコの祝日までを、「すべてのいのちを守るための月間」と定めています。

教皇様は今年の祈願日にあたりメッセージを発表され、そのタイトルを「被造物とともにあって、希望し行動しよう」とされています。

教皇様はメッセージで、「キリスト者の生き方とは、栄光のうちに主が再臨されるのを待ち望みつつ、愛のわざに励む、希望に満ちあふれた信仰生活です。・・・信仰は贈り物、わたしたちの内なる聖霊の実なのです。けれども同時に、自由意志で、イエスの愛の命令への従順をもって果たすべき務めでもあります。これこそが、わたしたちがあかすべき恵みの希望です」と記します。

その上で教皇様は、「イエスが栄光のうちに到来するのを希望をもって辛抱強く待ち望んでいる信者の共同体を、聖霊は目覚めさせておき、たえず教え、ライフスタイルの転換を促し、人間が引き起こす環境悪化を阻止して、変革の可能性の何よりのあかしとなる社会批評を表明するよう招くのです」と呼びかけておられます。

司教団の優先的取り組みとして、司教協議会には「ラウダート・シ・デスク」が設けられており、その責任者である成井司教様は、「月間」の呼びかけで、「イエスのセンス・オブ・ワンダー、驚きに満ちたまなごしは、わたしたちが総合的な（インテグラル）エコロジー、すなわち神と、他者と、自然と、そして自分自身と調和して生きる道筋を示しています。今年のすべてのいのちを守るための月間の間、イエスの驚きに満ちたまなごしで自分を取り巻くいのちのつながりに目を向けてみませんか」と呼びかけておられます。司教団が先般発表したメッセージ、「見よ、それはきわめてよかった——総合的な（インテグラル）エコロジーへの招き」を、是非ご一読ください。

マルコ福音は、ファリサイ派と律法学者が、定められた清めを行わないままで食事をす  
るイエスの弟子の姿を指摘し、掟を守らない事実を批判する様が描かれています。それ  
に対してイエスは、ファリサイ派や律法学者たちを「偽善者」と呼び、掟を守ることの  
本質は人間の言い伝えを表面的に守ることではなく、神が求める生き方を選択するところ  
にあると指摘されます。

さまざまな掟や法が定められた背後にある理由は、人を規則で縛り付けて自由を奪うた  
めではなく、神の望まれる生き方に近づくための道しるべであること思い起こし、人間  
の言い伝えではなく、神の望みに従って道を歩むことが、掟や法の「完成」であります。  
すなわち、使徒ヤコブが記しているように、その掟や法を定められた神のことばを、馬  
耳東風のごとく聞き流すのではなく、「御言葉を行う人」になることこそが、求められて  
います。

神がそのいつくしみの御心を持って愛のうちに創造された全被造界は、わたしたちに守  
り耕すようにと委ねられたものであって、好き勝手に浪費するために与えられてはいま  
せん。わたしたちは神から与えられた使命を忠実に果たす、本当の意味での神の掟を守  
るものでありたいと思います。